

果樹の生長相に関する研究

第2報 柿(次郎)の生長相について

長田 一 美*

OSADA, K. Studies on the Growth of Fruit Trees

II. On the Growth of Japanese Persimmon Trees (variety: JIRŌ)

調査方法 第1報⁽¹⁾の場合と同様の椀箱2箱を用い昭和26年1月に山柿砦で1年生の次郎(若杉系及び一木系各1本あて)を植付け、開き自然型に仕立てたものについて、昭和29年まで10~14日毎に地下部と地上部の生長量を調査した。その項目も前報の通りである。

成績及び考察 代表的と思われる昭和29年と28年()内の成績は次の通りである。

(1) 地下部(新根)の伸長: 5月23~29日(5月5日~6月5日)に現われ始め、7月始~下旬(7月上中旬1面のみ6月中旬)をPeakとして単頂曲線を描き、10月中旬~11月上旬(11月上~下旬)に発現伸長を停止するが、8月上旬までに82~89%(68~91%)の伸長率、81.5~89%(63.9~85.5%)の発現率を示した。29年は28年に比し、発現始め及び伸長のPeakは早かつたが、結果量が増したので全伸長量は著しく少くなり、晩秋の伸長停止は早く行われた。また、発芽伸長の早い若杉系は一木系に比し、新根伸長のPeakが早く現われる傾向を認めた。

(2) 新梢の伸長: 3月上旬(2月末~3月始)に催芽し、3月27日~4月2日頃より展葉伸長を始め、5月上旬(上中旬)にその先端が折れ、その後節間伸長を続け、開花期を経て5月末~6月始(6月上旬)に停止するが、これから8月中旬(中下旬)まで先端

が僅かに枯込んで短くなる。4月末までに96~97%(86~93%)の伸長をなす。2番梢は6月中旬(上旬)より僅かに伸長した。

(3) 幹周の増大: 新梢の伸長が大部分行われた5月中旬より肥大を始め9月上旬まで続いた。

(4) 果実の発育: 7月上旬より測定したが、全期を通じて前期肥大と後期肥大の双頂曲線をなし、縦径では7月中旬を前記肥大のPeakとして、その後徐々に低下し、9月中下旬を最低として9月下旬~10月上旬より成熟期にかけて再び若干の増加をみるが、そのPeakは10月上中旬である。しかし、これは縦径の真の増加ではなく、果基部の後期肥大によるものである。横径では9月中旬を最低として7月中下旬及び成熟前の10月上中旬にPeakがあり、縦径に比し、後期肥大が旺盛である。早熟性の一木系はそうでない若杉系に比し、9月中旬を境とした前期肥大の率が大きく成熟前の肥大が少ない。

(5) 生長相の相互関係について: 新梢の伸長と根の伸長及び幹周の増大との間には交互性があり、幹周の増大と根の伸長との間には対応性が認められる。また、果実の前期肥大と根の伸長、幹周の増大との関係はおおむね対応的であり、後期肥大では交互性が見られる。

* 熊本県果樹試験場